

音楽とは 横への感性なり!

合唱団ホームページアドレス

<https://www.wiengifu.org>

12月号

2022年12月1日

編集・発行

ウィーン岐阜合唱団

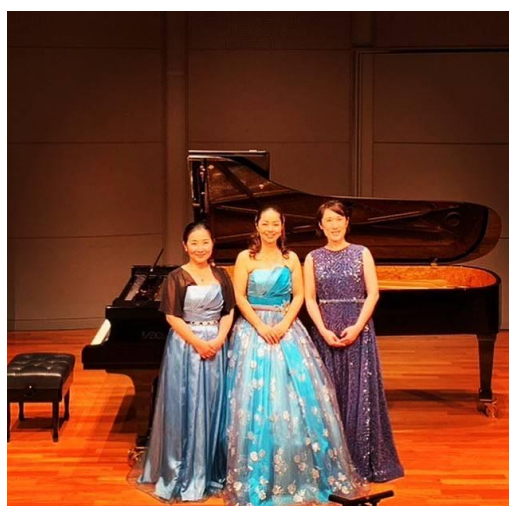
まち ごと おとたの
岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し 作:音楽総監督 平光 保

「感謝！」

ソプラノ歌手 ウィーン岐阜合唱団ヴォイストレーナー 伴 真由子
合唱団の皆様、2022年9月23日の演奏会、お疲れ様でした！皆様の合唱の響きに包まれ、モーツァルト戴冠ミサ曲のソプラノソロと一緒に歌わせていただいたこと、私にとっては思い出深い演奏会となりました。お仕事柄、ミサ曲に触れる機会は多いのですが、戴冠ミサ曲は私にとっても、いつか歌いたいと思っていた曲でした。長年ご一緒させていただいている、ウィーン岐阜合唱団とオーケストラの皆様、そして平光先生の指揮で歌わせていただけたことは、私にとって大きな喜びとなりました。ありがとうございました。

そして、いつも私の演奏会に足を運んでくださりありがとうございます。11/3(祝)名古屋でのサロンドラゴスコンサート、11/27(日)滋賀県栗東市でのトリオ結による世界音楽紀行には、岐阜や大垣からたくさんの団員の皆様にお越しいただき、本当に嬉しかったです！皆様が応援してくださるそのお力は、私の歌い学び続けるエネルギーとなっています。いつもありがとうございます。

さて、来年2023年2月でウィーン岐阜合唱団は25周年を迎えます。私も思えば立ち上げ当初、学生の頃からこの合唱団で団員としてお世話になっていました。



それからソリストとして歌うことも増え、指導者となり、今に至ります。歌の世界を教えてくださいくださった故大下久見子先生、合唱の世界を教えてくださいくださった松原千振先生、そして音楽を教えてくださいくださった平光保先生とウィーン岐阜合唱団という場所、どれ一つ欠けても今の私はないと断言できます。この合唱団は私を育て、成長を見守ってくださった場所でした。

私は今、滋賀県大津市在住で、4年生の娘、1年生の息子の母でもあります。子供たちも小学校に上がり、それぞれの道を歩み出しました。まだ10年程は子供達を優先して動ける母親でありたいという想いもあります。コロナ禍にもなり、距離や家族の事情もあり、合唱団の木・金曜日の練習には全く伺えなくなってしまいました。いつも気になりながら何も動けない自分にもどかしく、この2年程は指導者として無責任だと思ふようになり、何とか合唱団のために動けることを考えましたが、やはり、距離と家庭の問題はどうにもできないと気づきました。上記の事情もあり、私、伴真由子は、2023年2月でウィーン岐阜合唱団の指導者を辞めさせていただきたいと思っております。

私にとって歌とは人生そのものであり、生きる学びです。歌を学び続けることで、いろんな人と出会うことができ、触れて、お話しして、同じ時間を過ごす。それが時には演奏会であり、個人レッスンであり、合唱団の練習であり…その全てがかけがえのない時間です。

一旦指導者という立場からは退きますが、お声かけいただけましたら、合唱団の演奏会でまたご一緒させていただいたり、練習にも伺いたいと思っております。

これまで本当にありがとうございました。

私はウィーン岐阜合唱団の皆様のことが大好きです！感謝！

紅葉ツアーに参加して（2）

大垣・アルト 岡崎和子、岡野久子、小林真紀子、ソプラノ 西村悦子

二日目、朝起きて外を見ると、昨日は青空と紅葉だった山々の山頂がうっすらと雪化粧をしており驚きました。美しかったです。

宿を出て上高地に向かう前に「まいめの池」に案内していただきました。そこはまだ観光地化されていないようで、静まりかえった池の表面（おもて）に周りの紅葉が映えていました。



教えていただいて良かったです。

そこからバスは上高地に向かいました。

車中ではお互い散策コースをいくつか相談しました。私たち4人は大正池でバスを降り、遊歩道に沿って河童橋まで散策することにしました。

その途中でふと見ると、川岸近くで水鳥の番（つがい）を見つけました。美しい川の流れて泳ぐ姿を見て私たちは「美しき碧きドナウ」の一節を口ずさんでいました。まるでヨーロッパの岸辺を歩いているように感じられました。

昼には帝国ホテルの「伝統のカレーライス」をいただいて再び歩き始めました。澄み切った空気が心地良く、足取りも軽くなって河童箸を目指しました。そして河童橋で見たあの大パノラマの景色、息を呑む雄大な姿に感動しました。

こうして二日間とも暑くも寒くも無いという天候に恵まれ、山々の紅葉や仲間との合唱やおしゃべりなど全てが最高の紅葉ツアーでした。企画段階から当日までの全体に気遣っていただいた皆さま本当にありがとうございました。

音楽があるからツアーは楽しいよ 2022年紅葉ツアー旅行記

大垣テナー 鈴木 輝一郎

「鈴木さん、うだうだ言っていないで参加しなさいっ！」と、伴和子先生に一喝されて、参加しました、秋のウィーン岐阜合唱団・紅葉ツアー。2022年10月23日から24日の1泊二日です。

なにせ同行者なしの男の独り身参加のうえ、スタッフ山田さんから「ほとんどが女性だよ～」とのこと。はたしてバスのなかで話題が持つかどうかとか、怪しまれないか（よく不審者と間違われるんです……）とか、不安いっぱい申込みました—が、そこはホレ、音楽という共通の話題があるのはすごい。行きのバスのなかではいきなり和気あいあい。

初日の行き先は新穂高ロープウェイ。防寒対策をがっちりしておいて正解でした。乗鞍で温泉を堪能し、帰りは上高地。ぼくは帝国ホテル前でおろしてもらって帝国ホテル上高地のカレーをしっかりといただきました。しかし、なんとといっても圧巻はペンション・マドンナでの平光保・伴和子ディナーショー。すぐ目の前の距離でのピアノ&メゾソプラノ独唱の迫力は圧倒的っす。平光先生のピアノでホール天井から月光がさす！ 伴先生の歌声でホールのなかにナウシカの風がふく！（曲目がまるわかりですな）しかもディナーが美味しい！ 一升瓶を小脇にかかえ日本酒をついでまわる平光先生！ がんがん空ける伴先生！ いろんな意味で迫力満点、いろんな意味じゃなくて楽しさ満載のツアーでありました。

最後にスタッフの田中智恵美さん、山田秀子さんの活躍があつてこそこの旅でした。スタッフの方々に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。この次どうぞ！



上高地紅葉ツアー

2022.10/23-24

京都市在住 川浪 進

「上高地で紅葉を觀賞して、仏料理というのはどうですか。」と、平光先生が電話の向こうでおっしゃる。未だ、残暑厳しい頃で、紅葉のイメージがさっぱりない湧かない9月某日のことである。行きたいのはやまやまなれど、関西から駆けつけるには、朝の集合時間が厳しいので、お断りしようとしたら、山田秀子さんが、前日泊を勧めてくれたので、奈良のガールフレンド二人も誘って、参加することになった。

一体、子供のころ、上高地などという所は軽井沢と並んで、遠くて、金持ちの上品なお嬢ちゃま、お坊ちゃまの行くところと、なんとはなし、思い込んでいた。中年になってその先入観がやっと払拭されて、絵仲間や山仲間と何度か足を踏み入れて身近な存在とはなった。とりわけ、真冬の白一色に塗りつぶされた上高地は「神降地」の語源そのままを彷彿させて、忘れがたい。

恒例になっている、この紅葉ツアーは定期演奏会の打ち上げを兼ねており、田中智恵美さんと山田秀子さんが取り仕切っているのでわれわれはぼーっとついて行けば良い。しかも、上品な高齢な方々の高尚な旅行と喧伝されている。言うまでも無く、世に言うところの温泉旅行につきものの、いかがわしさとは無縁の旅行である。

名鉄観光のバスに27名がゆったり揺られて、先ず、ひるがの高原サービスエリア到着。風、爽やかに天高く、大日岳が懐かしい。しばしの休憩後、高山インターを出て、アルプス街道平湯で昼食した後、新穂高しらかば平駅からロープウェイで西穂高口駅へ、紅葉の始まった山頂を散策。

ついで、平湯、ゆけむり温泉へ。細かい泡で白濁している。温泉に浸かると決まって来し方、行く末をしみじみと思うのは何故か。銭湯や自宅風呂では、なんの感慨も浮かばないけれど。そうか、露天でタオルを頭に掛けて眠つむるから、来し方、行く末となるんだと納得した。

来し方と行く末思う秋湯かな

車中から次々と展開する紅葉、黄葉に歓声を上げながら、暮れなずむペンション、マドンナに到着。建物からして趣深い宿で、ここのお女将さんは音大を出たピアニストとか、ステージにグランドピアノが設置されている。いつの間にやら、平光先生奏でるところの悲愴のアダージオ。カンタービレが聞こえてくる。心地よく副交感神経が刺激されて、うむ、これなら今夜は良く眠れそうだ。折に触れてこの曲に接するたび、ベートーヴェンの高貴な精神を思わずにはいられない。「高貴」と言えばクセルクセスが歌う「懐かしい木陰」、この曲も静謐にして高貴であり、ヘンデルの高い精神性を世に知らしめたのではないか。嘘か本当か、気に食わぬ歌手の襟首を掴んで窓から放り投げたといわれる怪力無双、大食漢で粗暴なヘンデルがこんな曲を作ったと思うと余計に感慨深い。

カバレリア ルスティカーナ、の、なんとかかんとか、愛した惚れたのドタバタした殺伐たるオペラの中で、突如奏されるあの間奏曲は高貴な天女が舞い降りてきたように奇跡的であり、この一曲でマスカーニは後世に名を残した。いや、あのドタバタにこんな曲はむしろ唐突にすぎて、とってつけたようで不自然に思える。「月光」やドビュッシーの「月の光」は美しいことこの上ないが、私の中では「高貴」とは別の所にあるような気がする。夜のコンサートはこの静寂、高貴路線で行ってもらいたいね。

やれやれ、やっと乾杯の運びとなったところで、わたしが指名された。爺ちゃんは休む暇がありません。一体、この役を指名されるようになると、もう、先は長くないと覚悟すべきで、肺がんや大腸がんを宣告されたようなもんです。そこら回りの年長者が一人死に、二人死にして最近はお鉢が回ってくるのが頻繁になってきた。ようよう待望の仏料理、あれー、なんか違うぞ、これを飛騨では仏料理と言うのか。責任者出て来いと小さく叫ぶ。そうではない、なんと、大将が代替わりして、あんな料理になってごめんねと、翌日になって平光先生がバスの中でぼそぼそと弁解した。

明けて、今日は上高地を散策する。夜来の雨であたりはしっとりと濡れて、山に霧が立ちこめているが、日中は晴れるらしい。朝食後、バスで出発、途中、「まいめ池」という美しい池に案内された。こじんまりして、静寂の中、あたりの紅葉を映してまことに良い。

おや、伴先生、元気がない、若い人の肩を借りてヨタヨタしている。聞けば、二日酔いの上に腰が痛いとおっしゃる。ステージではいつも、その美貌と美声で江湖に感動を巻き起こすお人にして、この体たらく、なんと、可愛げがあるではないか。美人たるものはいつも納まり返っててはいけない、この「可愛げ」が必須です。

ところで、一行27名の構成はというと、半分がウィーン岐阜合唱団の方々で、残り半分が一般人で、われわれ関西の3人もその一般に人として参加させてもらっている。もっとも、私は4年前のリトアニア旅行に野次馬参加させてもらっているし、岐阜の音楽会にもちよくちよく顔を出しているので、ただの一般人よりちょっと偉い。いや、別に、偉くはない、いわば、NATOに入っているくせにロシアにも媚びているトルコみたいなもんか。

やがて、懐かしい上高地に到着した。焼岳が、穂高が碧空に聳えている。帝国ホテル前で降りる人はどうもあのカレーライスがお目当てらしい。われわれは河童橋で下車して、明神池まで散策することにした。「河童橋」、この名前は感心しない。もっと上高地に相応しい「高貴」な名前はないかなと、来るたび、そう思う。10数年前、扇田さんら、4人でここを歩いて、横尾山荘に一泊して、涸沢を通り穂高に登ったことがある。山荘は混雑していて、寝たら他人の足が顔の前であって、と、大変な思いをしたが、この頃はどうか。

からまつの森が颯爽と過ぎゆく。小林秀雄作曲のからまつは「落葉松」と書いて「からまつ」と読ませる。歩きながら高橋奈緒子さんがそっと「からまつの～秋のあ～めに、わたしの～手が濡れる～なんたらかたら、、、、」とその一節を歌ってくれた。さすがだ、やっぱりこのツアーは上品極まる。「からまつ」には伴先生の絶唱があると聞いている。

夕べ、伴先生がこれを歌ってくれたら、熟睡できたのになあ。たしか北原白秋の詩にも「からまつはさびしかりけり たびゆくはさびしかりけり、からまつのはやしをいでて、どうのこうの」とあったような。

明神池畔の山小屋は大変な人混みであったが、イワナを賞味することができた。昔、イワナは500円くらいだったのが、今は倍もする。その上、明神池を見るには拝観料だか通行料だかまで徴収するらしい。何時、誰が誰の許しを得てそんなことを決めたのか。帰りは歩きやすい梓川左岸のルートをとった。3時間ほどの散策を終えて、河童橋に戻り、全員集合、これで帰途につくことになった。もうこの先一生、上高地に来ることはないだろう。こんなに美しい林の中で、不思議にも、花と言うものがほとんど咲いていなくて、鳥の声は全く聞こえなかったが。

ツグミ啼きて見納めかとぞ上高地

紅葉も満喫したし、温泉も良かったし、音楽会も悪くなかったし、仏料理のことはまあ良いか。ひるがのサービスエリアで、ご婦人方の後ろにくっついて、真似しながら、なんやかや、お土産を仕入れた。岐阜駅で降ろしてもらって、帰路についた。かくて「高貴」にこだわって、「仏料理」にちょっと残念して、この旅は終わった。



私の習い事 (3)

岐阜・バリトン 辻 精二

③合唱のこと

還暦を前に、友人からウィーン岐阜合唱団を紹介されました。友人の父親は教師で、平光先生からの依頼でした。彼に連れられ平光先生と面談し、年末には第九の舞台に立てる様にしてあげる。と言われ、足の問題を抱えていたので渡りに船と、音楽の基礎もなく、先生の言葉に甘えて入団を決意しました。お陰様で年の暮れには国際会議場の第九の舞台に立ち、私の還暦記念は皆様と一緒に第九の合唱が出来る事になりました。

家で歌うと娘が、そこ半音違うと言い、娘が知らない歌でも、その音おかしいと言います。又、入団して数年間、合唱団では伴和子先生から、それ謡曲の声と言われ、謡曲の師からは、それ洋楽の声と言われました。最近は皆さん気を使って我慢して頂いているのでしょう。

謡曲の師匠が謡曲と西洋音楽は両立が難しいと言われた事で、思い当たる節があります。仲間に音楽の達者がいて、響きの良い声で上手に謡われますが、重厚な声が必要な時でも、軽くなってしまいます。オペラでも皇帝役では威厳のある声が必要です。謡曲では声の位と言いますが、彼は威厳のある重厚な声が難しいのです。軽い声が必要な役は充分できました。

真由子先生の発声練習で、辻さんの声は良く響いているが軟口蓋ではない所が響いていると言われました。声の生い立ちですね。悩ましいがソロでは生きないかと期待しています。



2010年6月19日から30日までヨーロッパ音楽友好の旅に参加し、チェコからベルリン迄12日間の旅の途中で、チェコのプラハ・ドボルザークホールにて、平光先生が指揮されるチェコ放送協会附属管弦楽団、同合唱団、とヴァイオリン平光真彌先生、メゾソプラノ伴和子先生、ソプラノ伴真由子先生と一緒に第九を合唱しました。

スタンディングオベーションの中、私の古希(70歳)の記念行事は感激の内に大成功に終わりました。

喜寿(77歳)の記念に槍ヶ岳(天狗池)の登山計画書を作りました。それをFさんに見せた所、ネットで希望者を募ることになりました。天狗池探訪が気を引いたのか6名のベテランの方々が大阪・名古屋からも応募してくれました。コロナ前の9月総勢7名での槍ヶ岳登山は上高地から片道20km、全行程40kmの登山となりました。総歩数7万歩いて無事終了しました。



80歳を前に会社を離れ、毎日が日曜日になりました。足首の痛みも軽くなり、日々1万歩(約7km)多い日は2万歩がこなせるようになると、山への虫がうずうずしています。

山に出会い、謡曲に出会い、音楽に出会い、それぞれに立派な師が持て、多くの皆さんに出会い感謝感謝です。振り返るとその時々のお出会いの上に私の道はありました。もう少しこのまま行きたいなと思っています。よろしくお願ひします。

12月～2月の練習予定

♪～準備が先、声は後～♪

平日 (18:30～20:30)		日曜日 (14:00～16:00)
岐阜 長森コミュニティーセンター	大垣 大垣市南地区センター	各務原 ウィーン岐阜ホール
12月 1日 (木)	12月 2日 (金)	12月 4日 (日)
12月 8日 (木)	12月 9日 (金)	12月 11日 (日)
12月 15日 (木)	12月 16日 (金)	12月 18日 (日)
12月 22日 (木)	12月 23日 (金)	12月 25日 (日)
1月 5日 (木)	1月 6日 (金)	1月 8日 (日)
1月 12日 (木)	1月 13日 (金)	1月 15日 (日)
1月 19日 (木)	1月 20日 (金)	1月 22日 (日)
1月 26日 (木)	1月 27日 (金)	1月 29日 (日)
2月 2日 (木)	2月 3日 (金)	2月 5日 (日) 休み
2月 9日 (木)	2月 10日 (金)	2月 12日 (日)
2月 16日 (木)	2月 17日 (金)	2月 19日 (日)
2月 23日 (木)	2月 24日 (金)	2月 26日 (日)

ウィーン岐阜合唱団創立 25 周年記念 夢☆音楽パーティ 2023.2.5 (日) 岐阜グランドホテル

平光 真彌 ヴァイオリンリサイタル

≪ 25 回忌 明治村髭のおまわりさんの祖父を偲んで ≫

2023年1月7日 (土) 開演 11:00 (開場 10:30) ウィーン岐阜ホール (ときめきホール)

♪プログラム♪

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| 1 愛のあいさつ | エルガー |
| 2 思い出 | ドルドラ |
| 3 「無伴奏ヴァイオリンの為に12の幻想曲」より (第1番 第1楽章) | テレマン |
| 4 タイスの瞑想曲 | マスネ |
| 5 G線上のアリア | バッハ |
| 6 ピアノソナタ op.13 「悲愴」(第2楽章) | ベートーヴェン |
| 7 祈り | 平光 保 |
| 8 愛の悲しみ | クライスラー |
| 9 ヴァイオリン ソナタ第5番「スプリング」(第1楽章) | ベートーヴェン |
| 10 ハンガリー舞曲 第5番 | ブラームス |
| 11 チャルダッシュ | モンティ |

Vn. 平光 真彌 Pf. 平光 保 (曲目については変更があるかもしれません)

演奏会：2,000円 (定員40名まで)、演奏会後の宴会 (ときめきホール)：2,000円 (定員25名まで)

お問合せ、お申込み ⇒ 高橋 なお子 090-9933-0374、058-294-6114

広報より

皆様からのご意見・ご投稿をお待ちしております。ご投稿・ご質問等は下記までお問い合わせ下さい。

坂井 俊郎

mail : sakai_gifu@yahoo.co.jp

090-7041-9133

高橋 なお子

mail : wien.chorus2021@gmail.com

090-9933-0374